

平成28年4月15日  
地震調査研究推進本部  
地震調査委員会

## 平成28年(2016年)熊本地震の評価

- 4月14日21時26分に熊本県熊本地方の深さ約10kmでマグニチュード(M)6.5(暫定値)の地震が発生した。この地震により熊本県で最大震度7を観測し、被害を伴った。現時点までは、地震活動は本震-余震型で推移しており、4月15日18時現在までの最大の余震は15日00時03分に発生したM6.4(暫定値)の地震で、最大震度6強を観測した。余震活動は減衰傾向が見られるものの活発であり、北東-南西方向に延びる長さ約20kmの領域で発生している。
- この地震の発震機構は北北西-南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、地殻内の浅い地震である。今回の地震の余震分布と本震の発震機構から推定される震源断層は北北東-南南西方向に延びる右横ずれ断層であった。
- 今回の地震に伴い、熊本県内のKiK-net 益城観測点で1580gal(三成分合成)など、大きな加速度を観測した。
- GNS観測の結果によると、本震および最大余震の発生に伴って、熊本県内の城南観測点が北北東方向に約20cm移動するなどの地殻変動が観測されている(暫定)。
- この震源域付近には日奈久断層帯が存在している。今回の地震は、その高野-白旗区間の活動によると考えられる。地震調査委員会は日奈久断層帯(高野-白旗区間)について、活動時にM6.8程度の地震が発生する可能性があり、30年以内の地震発生確率は不明と評価していた。なお、日奈久断層帯(高野-白旗区間)を含む九州南部の区域では、M6.8以上の地震の発生確率は7-18%と評価していた。